

腥

作  
..  
岡部  
竜  
弥

登場人物

少女

## 【前説】

舞台中心面側、役者が立っている

皆様、本日は遠路はるばるこの○○（会場名）までご来場いただきまして、誠にありがとうございます。開演に先立ちまして、ご来場のお客様に幾つかお願いがございます。携帯電話、時計のアラームなどの音の出るものは他のお客様の観劇の妨げになりますので、あらかじめ音の出ない状態にしておいてください。そして、現在このようなご時世です。マスクを外したり場内での飲食といったことはお控えください。間もなく開演いたします。どうぞごゆっくり、お楽しみください。

即席ユニット ちりあくた。第七回全国学生演劇祭 ももち会場参加作品。

こま

役者、ポーズをとる

「月」に「星」と書いて「なまぐさと」と呼びます

## 【1】

雑踏の音が響く

人ごみにもまれながら薄暗い中に少女が立っている

少女、大きく足を踏み鳴らし、仁義を切るポーズをとる

その瞬間、彼女にスポットが当たる

そこいらにいらっしやるお兄さん方、お姉さん方、お控えなすって。手前、生国と発します。するは九州端の片田舎の生まれ。渡世上故あって、親、一家持ちません。駆け出しの身持ちまして姓名の儀、一々声高々に発します。失礼さんです。姓は青葉、名はみらい、人呼んで「あおばのみっちゃんと」と発するケチなアイドル志望でござんす。以後見苦しき面体おみしり置かれました、向後万端引き立って——

———よろしくお頼み申します。

少女、普通に立つ

今しがた言った通りなんです。私、アイドルになるために上京してきました。いわゆるアイドルの卵。いや、卵というところか謙遜が入りますか。私、アイドル一歩手前、いや

さ、半分アイドルでございます。

なぜなら、何を隠そう私は、アイドルになる星のもとに生まれてきた存在だから。

この美貌。このスタイル。この愛嬌。どれをとっても現行のアイドル達とは比べ物にならない逸材。今の今まで九州くんだりでくすぶっていたことが不思議でなりません。

事実、九州の片田舎からテレビを通して木っ端のアイドル共を見た折には「なぜこんな輩がアイドルを？」思ったものです。

まあそれも、今日までのこと。私がこの地に降り立った暁には、昭和のあのレジェンドアイドルたちが群雄割拠していたころのような輝きをもたらすことでしよう！

また仁義を切るポーズをとる

目指すは、山口百恵御大！

OP

## 【2】

少女が地面を踏み鳴らす

その瞬間舞台全体明るくなる

と息巻いて幾つかの大手デビューオーディションを受けてみたはいいものの、一向に受かりやがらん。私のあふれ出る魅力の前にまともな目利きが働かないのか、はたまた審査員の目が揃いも揃って節穴なのか

「好きな食べ物は、プリンです！」

「好きな動物は、猫ちゃんです！」

「友達が勝手に応募しちゃって」

何故だ、何故なのだ。私のセルフプロデュースは完璧なはず。

それなのに審査員たちは口を揃えて

『どこかで見たことある感じだね』

『なんかオリジナリテイがないんだよね』

『立ち悪い友達だね』

と紋切り型のことしか言いやがらない。

じゃかあしい！何がオリジナリテイだ！万人に憧れるアイドルとは王道ど真ん中じゃ！奇を衒ってっぺんなんぞとれるかい！

ああ、もうこの際事務所の規模はどうでもいい手当たり次第じゃ！

少女、全てのオーディションに落ちる

まさか一つも受からないとは…。

こうなっては鋼の自信も揺らぐというもの。上京のために溜めたお金もそこを突いてきた。ここは故郷への一時撤退も一つの手か…

一通の知らせが届く

ん、これは…？  
なになに。

『青葉 みらい様、あなたは当社における所属オーディションに合格いたしました。』  
な・ん・た・る渡りに船！

デビューではなく所属というところが少々気になる所だが、この際それも仕方ない。

とんとん拍子に事が運ばない方が、将来Mステであるであろうエピソードトークに拍がつくというもの。

しかし、ははは。なんだ。なかなかどうして見る目のある事務所もあるものではないか。

『芸能事務所ムーンスター』

聞いたことない上になんともださい名前。きつと箸にも棒にも掛からない弱小事務所なのだろう。はっはっは。「弱小事務所をその身一つで救ったアイドル」これもまた一興。

それでは早速『芸能事務所 ムーンスター』へ  
とうっ

少女、事務所に移動する。

あーついたついた。ここが『芸能事務所 ムーンスター』

いやあ、大方の予想通りなんともさびれた事務所だこと。

周囲を見渡すと。同じようにこの事務所に所属が決まったであろう者たちがちらほら。

ほうほう、さすが私と同時に受かっただけあってなかなかの粒ぞろい。

しかーし、こんなもの私のもつ輝きに比べれば月とスッポンその者よ！

おおっと駄目だぞ青葉 みらい。あなたはこれからトップアイドルへのスターダムを一気に駆け上がるの。あんまり大きな態度でいると、あとあと掘り返されてマスコミに餌食。

ここは謙虚に。

「私なんかがこんな場所にいていいのかしら」

なんて言いながらうろろしていたらドーン。誰かとぶつかった。

いったいな、顔に傷がついたらどうしてくれる。未来のトップアイドルの顔だぞ。と思っ  
ながら顔を見ると。

キューン！

なんというイケメン。

この事務所、なんたるリーサルウェポンを抱えてやがる。まさか弱小事務所というのは仮初で実はどこか大手の子会社——

『どうも、プロデューサーです』

プロデューサー!?!?

今あんた自分のことをプロデューサーといいましたか！なんてもったいないことをなさるんだ！そんなハンサムフェイスを持つのならプロデューサーなんかより、自分で表舞台に出た方が何倍もいいでしょうに！

『君たちにはしばらくアイドルのレッスンをしてもらおう。そしてふさわしいと思った一人だけにデビューしてもらおう。』

なんと。レッスンを受けていれば自動的にデビューさせてもらえるというわけではないらしい。いや、それもそうか。こんな弱小事務所に才能のない人間を全員デビューさせる余裕なんてないのか

：・気に入ったー！これぞ弱肉強食のアイドルというもの。どこぞの大人数で全員大安売りをしているようなところよりは百倍ましだ！

ということは、ここにいる全員がライバル！まあ、私の輝きの前では大いに霞むがそれでもそれぞれがオーディションに合格した——

ってなんだこいつら。全員あのプロデューサーに赤ら顔してやがらあ。みーんな恋する乙女見たいな顔して。揃いも揃って一目惚れか！

は、情けない。こいつらは『アイドルは恋愛禁止』という最低限のルールすら守れねえでやんの。これじゃあ、結果は見えたも同然だな。

ん？いや、一人だけ様子が違うな……。こいつまっすぐな目をしてやがる！なかなか気骨のあるやつもいたもんだ。きつとこやつはデビューに向けてのライバルになる。要チェックだ！

「あー、私なんかこんなところでやっていけるのかなー

不安だなー。

あ、その人。ああうん。あなた。

色々と不安なことだらけだけど、がんばろうね！

私、青葉みらいって言うの。みっちゃんと呼んで

あなたは？」

私がそう聞くと彼女は田中希望（ミラクル）と名乗りました。希望と書いて「ミラクル」。田中希望（ミラクル）、田中希望（ミラクル）！なんて癖の強い名前なんだ！少々名前と読みが噛み合っていないが、バラエティでの掴みは完璧じゃないか！それに顔もなかなかキューティ&ビューティ田中希望（ミラクル）！よしインプット！

なんて互いに軽く自己紹介的なものを済ませたところで今日は帰宅と相成りました。とうっ

少女、ジャンプする。着地した瞬間に場転。  
少女の自宅

帰りつくは四畳半の我が根城。

荷物は最小限。布団と一週間分くらいの洋服と姿見、そして数冊の本。

みすぼらしい…、

ふ、ふふっ

少女、仁義を切るポーズをとる。

そこいらにいらっしやるお兄さん方、お姉さん方、お控えなすって。手前、生国と発しするは九州端の片田舎の生まれ。渡世上故あって、親、一家持ちません。駆け出しの身持ちまして姓名の儀、一々声高々に発しますに失礼さんです。姓は青葉、名はみらい、人呼んで「あおばのみっちゃんと」と発するケチなアイドル志望——いや、アイドル見習いでござんす。以後見苦しき面体おみしり置かれまして、向後万端引き立って——  
——よろしくお頼み申します。  
やった

### 【3】

アイドル候補生になってから早一か月。なんともなんとも大変だった。

日中は生活費を稼ぐためにアルバイト。夜はデビューのための歌や踊りのレッスン。

この繰り返し。若々しい肉体を持つ私にとってこんなスケジュールなど屁でもないが、問題は精神面。山口百恵御大のように華々しい舞台で輝くことを求めているものからすると「アルバイトで生計を立てる」というギャップに心底辟易させられるのだ…

ただ少し意外だったのは誰も途中でリタイアする者がいなかったこと。アイドルを志しながらプロデューサーに一目ぼれしてしまうような気骨のないやつらが、この一か月の苦行を乗り越えられるとは。なんと侮りがたしアイドル界。私も一層精進しなければ。

一通の知らせが届く

これは、事務所からのメール？

なになに…？

…なんと！

「アイドルデビュー中間オーディション」！？

メールの内容は要約すると以下の通りだった。

『みんなお疲れ様！よくこの苦しい一か月間を耐え忍んだね！  
そんな皆さんにお知らせです！今週末のいつもレッスンをしている時間に急遽オーディションを行います！ここで落ちたら契約解除！多分人数は半分くらいになるよ！ごめんね！ん？理由？理由はね、えーとね、んーとね、思ったよりお金ないなーって！マジすまん！それじゃよろしく！』

これは——なんて願ったり叶ったりな提案だ！

同じことの繰り返しばかりで気が滅入っていたところだ！

普通だったら自分が落とされるかもと不安で縮こまってしまっただろうが、私はそこいらの凡百アイドル候補生とは違うのだ。

この美貌。このスタイル。この愛嬌。どれをとっても現行のアイドル達とは比べ物にならない逸材。今の今までアイドル候補生くんだりでくすぶっていたことが不思議でなりません。唯一の懸念はあの田中希望（みらくる）とかいう少々見どころのある彼奴（きやつ）。

私ほど、とは言わないがレッスンでもそれなりの実力を示していた。まあ、今回落ちるのは半分くらいだと言うし、私が落ちるということは無いだろう。

そうと決まればオーディションの日まで精神を集中し精進あるのみ！

みらい、レッスンをする。

いつの間にかオーディション当日になる

ん？あれ？もうオーディション当日？なんとも光陰矢の如し。熱中している内の時間は早く過ぎるもの。それでは綺麗におめかしして、オーディションの会場に行かなければ！

とうっ

オーディション会場につく

ここが会場。見たところただの多目的ホール……。

この場所で血で血を洗い蹴落とし合うオーディションが行われるわけか。

ふふ、はははっ、血沸き肉躍る！ようやくアイドルらしいことができる！

ん？あそこにいるのは田中希望（みらくる）？

プロデューサーに挨拶をしている？

さてはオーディションが始まる前に印象を良くしておこうという魂胆だな。

ふふ……、ははははは！

田中希望（みらくる） 破れたり！

アイドルの世界とはカリスマの世界！カリスマとはそれすなわち揺るぎない自信！ロデオユーザーへのあいさつなど、オーディションで受かる自信がないと言っていても同じ！例え今日通ったとしてもデビューなぞ夢のまた夢。

初対面のときは中々見どころがあると思ったがどうやら期待外れだったようだ。

興が削がれた気分になったがまあいい。私は私そのままの実力で、オーディションに合格すればいいのだ！

と、意気込んでいると、私が入ってきたのとは別の入り口からずらーっと大人たちが、それはもう恰幅と羽振りの良さそうな大人たちがずらーっと入ってきた。

大人たち全員がパイプ椅子に座ると男前のプロデューサーが前に立って

『ここにおられる方々はそれぞれ芸能界で確固たる地位を持った方々だ。

今回のオーディションは自分だけではなく、彼らにも審査していただく』  
的なニュアンスのことを言っていた。

言われてみれば、誰もかれもテレビや雑誌で見たことあるような顔だった。

こんな弱小事務所がいったいどうやってそんな方々をお呼びすることができたのか少々不思議だが、まあそれはいい。

問題なのは彼らが持つ芸能関係者特有の芸能人オーラ……。周りの候補生たちも軒並み気圧されている……。

これはさすがの私もかなり緊張——などしない！

青葉 みらいは、アイドル界きつての逸材！ 眼前に立つ並み居るお歴々たちともいつか肩を並べてお仕事をするような綺羅星！

むしろこの中間オーディションで目を付けられれば、こんな弱小事務所など飛び越えて大手レーベルからデビューできるかも！

なんて未来への明るい展望を夢想している内にあれよあれよとオーディションは進み次はようやく私の番。オーディション内容は2分間の自己PR。

見せてあげましょう！ 私の魅力を！

「青葉 みらいです！ みっちゃんって呼んでください！ よろしくお願ひします」

「好きな食べ物はプリンです！」

「好きな動物は猫です！」

「山口百恵さんが置いたマイクを私が拾いたくなって思ってます」

手ごたえ上々！ 審査員の様子も……上々！

これはいよいよ本当にあるのではないか？ 一足飛ばしでのメジャーデビュー！

……ん？ 次は田中希望（みらくる）の番か……。はっ、見るまでもない！

自信のないもののパフォーマンスが通用するわけがなからう…。

みらい、そっぽを向く

田中希望、大成功する。大きな拍手が聞こえる。

なに！？なんだこのレスポンスは…。審査員が立ち上がって拍手をしているじゃないか。

…田中希望（みらくる）…！

と、驚いているうちに結果発表。

当然、青葉みらいは合格。そして田中希望（みらくる）も。

送られてきたメールの通り、大体半分くらいが不合格になったようだ。

落ちた大半の者たちは、意気消沈し、中には涙を浮かべている者たちもいた。

普段の私であれば「残念だったね。でもあなたなら別の場所でも頑張れるよ。ただここが合わなかっただけ」なんて半分皮肉の混じった勝ち名乗りを上げるのだが、今はそんな気分じゃなかった…

歩いて帰ろう。いつものように飛ぶ速さで帰るには今日は少々、足が重い。

…：…こんなことになるなら田中希望（みらくる）のPRを見ておけばよかった…

…：…というか田中希望（みらくる）も悪い。あんな反応を貰えるほどの実力があるのであれば、プロデューサーへの挨拶なんて要らなかっただろうに。

なんて考えていると、いつの間にか普段は通らないような明るいところを歩いていた。

背中をぱっくり空いた服を着た化粧濃いめの女。スーツを着て小奇麗にしているが、言葉の端々から品のなさが見えるタバコ臭い男。

どうやらここは風俗街のようだ。ああ、やだよだ。気が滅入っているときにこういう絵面を見たくなかった。まあ、ぼうつとしていたのは私なんだけど。

みらい、何かを見つけて立ち止まる

…：あれはたしか今日のオーディションで不合格になっていた娘だ。

かなり年上の男に手を引かれている。向かう先は、お城のような宿泊施設。

顔は、どこか、諦めたような…

みらい、吐き気を抑え込み半狂乱で走り出す

みらいの自宅に帰りつく

帰りつくは四畳半の我が根城。

荷物は最小限。布団と一週間分くらいの洋服と姿見、そして数冊の本。  
みすぼらしい……

みらい、我慢できなくなって吐く

ごめんなさい

#### 【4】

みらいの過去

お母さん！ あたしね、おうた大好きなの！

うん！！ そう！ あたしね！ 大きくなったらね！ アイドルになるの！

えへへ。大丈夫ー！！ いっぱい頑張る！

えへへ

#### 【5】

みらい、コンビニでアルバイトをしている。

合計で711円です。袋とスプーンはお付けしますか？ はい。あ、いえ。スプーンの方は今月から3円いただくことになりました。……はい。はい。すいません。決まっております。……はい。それでは合計は717円です。はい。ありがとうございました。またお越しくださいます。

次の方どうぞー

次の客が来る。

みらいの知り合いだったようだ

こちら袋は——あ、うん。今こっちで事務所に入って、候補生やってるの。うん。ありがとう。いやあ、でももうちょっとかかるかも。合計で420円です。うん。ははっ。……だね。うん、まだどこかのタイミングで。

次の客が来る。

オーデイションの審査員のようだ

次の方どうぞー

あ、いえ。先月のオーディションではお世話になりました。いえいえ。おかげさまでいい刺激をただけて、練習にも一層身が入ってます。ははっ、いやあ、本音ですよ。こちら袋は？ はい。合計で183円です。はい。え？あと一時間もしたら終わりますよ。はあ、今日はレッスンもないんで大丈夫ですけど。。。は、はい。

みらい、バイトが終わり審査員とレストランで合流する。

えっと、お話というのは。。。？

あ、いえなんというか、こういう場所が初めてで緊張しちゃって。ははっ。

あ、ありがとうございます。レッスンを頑張ったかいがあります。

はいっ。ああ、えっと。田中希望（みらくる）ちゃんがすごかったなって、思います。皆さん立って拍手されましたし・・・

。。。ああ、すいません。私、その、ちょうどとお化粧直しに行ってて最後の方しか見れなかったので・・・  
何故って。。。それは、希望（みらくる）ちゃんの自己PRが素晴らしかったからとか・・・

みらい、飲み物をとろうとした手を審査員に触られる

きやつ、ちょっとなんなんですか！

。。。そういうことなんですか？ 希望（みらくる）。。。にも同じことをしたんですか。。。？  
。。。最低です。

。。。え？自分から？ 希望（みらくる）ちゃんは自分からこんなことをしたんですか？  
。。。確かにそうかもしれません。でも、だったら別の事務所に移ったり。。。だとしても。  
。。。考えさせてください。

みらい、電話番号の書かれた紙を貰う

彼の電話番号が書かれた紙  
これを渡された私は、私は――

## 【6】

なんかもう吹っ切れた！

一気にいろいろなことが起こり過ぎてキャパシティを超えたのが逆に功を奏したのか、もうなんか知ったことかかってなった。

田中希望（みらくる）が裏でどんなことをしているようと、それと私は関係ない！ 私は私のやり方で私のやりたいようにするのだ！ 実力があれば結果はその後についてくる！ というか、田中希望（みらくる）がこのままデビューできたところで、所詮実力ではない所での成功。ファンや客も馬鹿じゃない。すぐにその姿を消すだろう。私はそのことをオーディションで自分の実力をもって証明すればいいのだ！

ちんけな裏工作など私が吹き飛ばしてくれるわ！

と息巻いてみたところ、日々の生活の中で何が起こるわけでもなし。

今まで通り、レッスンとアルバイトの毎日。その繰り返し。

今日のような休みの日だって、何をするわけでもなく家でのほほんとしているだけ。

一通の知らせが届く

ん？ これは？ 事務所からのメール  
なにになに……

『候補生ライブ』開催の決定』

候補ライブ……、候補生ライブ！？

『皆さんどうも！ 中間オーディションではお疲れ！

あんなにたくさんいた仲間が半分くらいになっちゃったけど、まあしょうがない！

あ、そうそう。メールの題名にもある通り、候補生でライブをすることにしました！

へへ、すごい？ 凄いでしょ？ かなり頑張ったからね。

まあ、場所も全然大きくないライブハウスだけど。あ、来月ね。来月。

と、いうわけで。まあ、ライブに向けてモチベーションを上げて、がんばってね！

ばいばーい！

……あ、あとそのライブで、最後のオーディション、するから。観客の投票で！  
がんばって！ じゃあ！』

ライブ……

……ライブ！！ようやくこの時が！

私のこのあふれ出る魅力を世に知らしめる時がやってきた！

名前が「候補生ライブ」という所と会場がライブハウスだという所に少々思うところはあ  
るが、まあそれはしょうがない。

とにかく、ようやく舞台上で輝くことが――

最終オーディション!?

最終オーディションって言いました!?

いや…、なんかこう、言い方とか…、タイミングとか…あるでしょうに…!

いやまあ、私は別にいいんだけど…!!

…まあとりあえず文句は置いといて。

遂に最終オーディションか…。これで私のデビューが決まる…

………田中希望（みらくる）

…何を弱気になっている青葉みらい!

思い出せお前は誰だ!

この美貌。このスタイル。この愛嬌。どれをとっても現行のアイドル達とは比べ物にならない逸材! 落ちるわけがないだろう。

それに今回の審査形式は観客投票だ。それなら、田中希望（みらくる）の裏工作など使えない。まさか当日来るファン全員に裏工作をするわけにはいくまい

うんうんうんうん。大丈夫! 大丈夫!

私の実力さえ出し切れれば!

一通の知らせが届く

これは、候補生グループでのメッセージ?

『「候補生ライブ」に向けて今から一緒に練習しませんか?』

…はっ。何を言っている。最後にオーディションで合格するのは――

「いいねー! 一緒にやろう!」

場転、屋外の練習場。公園とか。

違う違う、これは違うのだ。別に一人でどうにかする自信がなくて、このみんなで練習する公園に来たというわけではない。

ただなんというあの、その、…そうだ! 私以外の候補生がどのような心持ちでオーディションに臨むのか気になっただけだ! ただ私は、これからその夢をつぶしてしまうであろう候補生たちの話を聞いてなにかしらの、こう、はなむけにしようと考えただけだ! よしよしよしよし。そうだ、そういうことなのだ。

…しかし、気が急いたのかどうやら早く来すぎてしまったようだ。集合時間まであと一時間くらいあるじゃないか。流石に誰も…

みらい、遠くに誰か見つける

…ん？ 誰かいる？ あれは…田中希望（みらくる）？

手元の携帯で何かを見ていてこちらに気付いていないようだなあんだ、あやつも早く着き過ぎたのか。

ん？ 携帯を地面に置いて踊りはじめた？ ああ、なるほど、早めに来て練習をしたというわけか。

そうだ、ちょうどいい機会だ。中間オーディションで見れなかったあいつのパフォーマンスを見て見よう。まあ、裏工作などしているような輩のパフォーマンスなど——

田中希望、圧倒的なパフォーマンスを見せる

…は？ いやいやいやいや。…は？

中間オーディションの時のあの拍手は、裏工作によるものはなかったのか？

審査員の人もそう言っていたでしょ。あの人が嘘を？ いや、それは、何で？

みらい、田中希望に声をかけられる

——あ、はいっ。あ、いやそのなんか早めに来ちゃって…

…うん、そうそう。

…ははっ、だねー。

…ダンス、上手だね。

…いやいや十分上手だよー。私憧れちゃうな。

…いやいや、私なんて全然。

………枕営業してたって本当？

いやいやいやいや、別にただ噂で聞いただけ。希望（みらくる）ちゃんがそんなことするわけないよね。

………そうなんだ。だよ。無理だよねー。

………ん？ えーつとね。友達が——山口百恵みたいなアイドルになりたくて。

………ははっ、やつぱりちよつと古いよね。

希望（みらくる）ちゃんは。

………へえ、凄いね。すごいね実験とか、自己実現とか、私なんかそういうの考えたことなかったよーさすがだねー。すごい、凄いなと思う？

………あ、皆着たみたいだよ。ははっ早めに練習始めちゃおっか

みらい、候補生たちと練習を始める。どこか自信がない。

ようやく、最終オーディションの日がやって来ました。初々しい候補生たちを見せたいの  
かりハースルはなし。進行を軽く説明しただけ。ぶっつけ本番。

大丈夫大丈夫。私なら大丈夫。だって私は青葉みらい。アイドルになるべくして生まれた  
――  
目の前を田中希望（みらくる）が通っていく。

…逸材。

例えここで落ちたとしても、素晴らしいパフォーマンスを見せれば、誰かが拾ってくれる  
さ。いいじゃないか。一つ跳びでデビュー。本懐だ。

みらい、準備をしていく。

みんながどこか遠くを見ている。田中希望（みらくる）以外のみんなが。田中希望（みら  
くる）以外の私を含めたみんなが、遠い目をしている。ああ。もうなんなんだ。控室中が  
辛気臭いお通夜ムードだ。何故だ。何故。今から念願の舞台に立てるといふのに。まるで  
今わの際みたいだ。ははっ。ぜーいん諦めちってる。

私含め。青葉みらい、含め。

ああ、もうすぐ始まる。最初はそれぞれ一人ずつ舞台上がって自己PR。中間オーデシ  
ョンとは違って私の一つ前が田中希望（みらくる）。……………そして全員での課題曲  
のパフォーマンス。

…あ、客入れの曲が大きくなった。もうすぐだ。もうすぐ。始ま――った。

最初の子が行った。名前なんだっけ？ 忘れちった。さようなら多分もう会わない。  
ダメだ心臓がバクバクする。手を組んでないと心細い。喉が渇く。膝がなんかゆるい気が  
する。呼吸が浅い。

青葉みらい、頭の中がパニックなる。

衝動的に叫ぶ。半ば自棄（やけ）だ。

呼吸は浅く、叫び声は弱々しい。自分が何を言ってるのかすら分からない。

その様子はまるで駄々をこねる赤ん坊のようだ。

「我々アイドルがいただいているのは、奪っているのは、金なんて生易しいものだけじゃない！」

時間だ！ 寿命だ！ つまり命だ！

二時間のライブをするとき、われわれ二時間分の寿命を奪っているのだ！ 二時間分殺しているのだ！ つまりライブとは、アイドルの晴れ舞台とは一方的な虐殺の場！ 「二時間の自殺志願者」たちを殺すための電気椅子だ。そりゃあ火花も散りましょう！ そりゃあ明るく光りましょう！ そりゃあ骨抜きにもしましょう！ そりゃあ痺れましょう！ そりゃあ腫くもなりましょう…

それなのに何が実験だ！ 何が自己実現だ！ そんなもんここにかかる前に済ませとけ！！ 我々がすべきは死にたがりたちが、ファンが！ 満足した顔で逝ける瞬間を作ることだけだ！」

田中希望、歩いていく

といった私の言葉など全く届いていないかの様でした。当たり前でしょ。だって言ってるだけだもん。思ってるだけ。田中希望（みらくる）はそんな私の様子を見て軽く小首を傾げて歩いていきました。

田中希望にあたっていた照明、ゆっくりと消えていく

田中希望（みらくる）が舞台上の光に進んでいきます。「ああ、これは駄目だ。これは駄目だ。」と。なんとというか、今になって焦りの感情が芽生えてきました。

田中希望が向かった先の舞台から、歓声が聞こえる。

田中希望（みらくる）のパフォーマンスに、観客たちが大きな拍手をしています。

ああ、なんかもう嫌です。出たくない出たくない。鼻の頭がツーンとして喉の奥が辛（から）くなってきました。泣きそうです。ああ、もう泣きます

みらい、泣く。喚く。鼻を吸り、しゃくりあげて嗚咽する。

田中希望、帰ってくる

田中希望（みらくる）が帰ってきました。どこか誇らしげです。私になんか一瞥もくれずすたすたと楽屋に戻ってきました

舞台から音が消える。どうやら次はみらいの番のようだ

次は私の番です。もう後戻りはできません。逃げられるものなら逃げたいですが、その勇氣すらありません。誰か助けてください。いえ、誰も助けてくれません。当たり前です。怖い。怖いけどいかないと。今になって自分の弱さに気付きました。小ささを知りました。口だけだと知りました。もう、どうにもなりません。ああ、足が勝手に。舞台上に、舞台上に。

みらい、舞台に立つ。

みらい、何の武器もないためライブに失敗する

みらい、プロデューサーと話している

「はい、はい。ありがとうございました……。いえ、もうちょっとこっちに残ってオーディションとか、受けてみようと思います。はい、はい。また機会がありましたらよろしく願います。はい、ありがとうございます」

## 【8】

雑踏の音が響く

人ごみにもまれながら薄暗い中に少女が立っている

少女、弱々しくも大きく足を踏み鳴らし、仁義を切るポーズをとる

彼女にスポットは当たらない。弱々しく光が当たる

声は弱々しく、聞こえはするが雑踏にもまれて消えそうだ。

そこいらにいらっしやるお兄さん方、お姉さん方、お控えなすって。手前、生国と発しするは九州端の片田舎の生まれ。渡世上故あって、親、一家持ちません。駆け出しの身持ちまして姓名の儀、一々声高々に発しますに失礼さんです。姓は青葉、名はみらい、人呼んで「あおばのみっちゃんと」と発するケチなアイドル志望——いや、アイドル見習い——いや、アイドルでござんす。以後見苦しき面体おみしり置かれまして、向後万端引き立って——

——よろしくお頼み申します。

少女、雑踏の中に飲まれていく。

最後には真っ暗になり雑踏の音だけが響く

ふと雑踏の音が止む

場転、ここは少女の家。

少女、家にある物に目を落とした後、布団をかぶる。

ごめんなさい。

ごめんなさい

ごめんなさい

ごめんなさい

少女、謝り続ける。

ずっと。ずっと。ずっと。

電話を掛ける音

《FIN》